

## ヘレニズムの思想家

### 2018年追試

問4 次の文章は、人生の短さを論じたストア派の思想家セネカが今という時の価値について述べたものである。その内容の説明として最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 14

ところで、自分には予見の能力があると言って自慢する者たちの判断ほど軽薄なものがあり得ようか。人は、より善く生きようとして、なおさせわしなく何か忙殺される。……人は、これを、次にはあれを、と考えをめぐらせ、遠い将来のことにまで思いを馳せる。ところが、この先延ばしこそ生の最大の浪費なのである。先延ばしは、先々のことを約束することで、次の日が来るごとに、その一日を奪い去り、今という時を奪い去る。生きることにとっての最大の障害は期待をもつこと、つまり、明日という時に依存し、今日という時を失うことである。君は運命の手中にあるものをあれこれ計画し、自分の手中にあるものを喪失している。君はどこを見つめているのか。どこを目指そうというのであろう。来るべき未来のものは不確実さのなかにある。直ちに生きよ。

(『生の短さについて』より)

- ① 人間は、今日できることは明日でもできると考え、怠惰な毎日を過ごしがちであるが、それは時間の浪費につながる愚かな行為であるから、将来の計画をしっかりと立てたうえで、今を大切に生きなければならない。
- ② 人間は、善き生のために未来のことを考え、様々な計画を立てるあまり、この今という時の価値を見失いがちであるが、自分が本来は手にしている今という時を真剣に生きることが大切である。
- ③ 人間にとって、目前の事柄に追われ、多忙な毎日を送ることは、長期的な視野で人生を考える時間をなくすことであるから、目前の事柄ではなく、遠い将来に目を向けて人生の計画を練ることを優先すべきである。
- ④ 人間にとって、未来の運命は完全には予測できないが、自分が手にしてきた過去の経験から未来を推測することはできるのだから、善き生のために今

という時をいかに過ごすべきかを真剣に考える必要がある。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第2問	問4	14	②	3

2017 年本試

問 5 次の文章は、ポリス(国家)が全盛期を過ぎた後のギリシア・ローマ世界の思想についての記述である。[ a ]～[ c ]に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 [ 15 ]

アレクサンドロス大王の東征を機に、ギリシア文化が東方の文化と混じり合うようになると、ヘレニズム文化が誕生した。こうした諸文化の混交を経て成立したストア派からは、[ a ]の思想が提示された。宇宙のロゴス(理性)に従って生きる人は、都市国家の枠組みを越えて、みな同胞であるという主張がなされたのである。この考えは、近代の[ b ]思想の成立に影響を与えることになる。ストア派は宇宙の理法を神として捉えたが、一方で、[ c ]を代表とする新プラトン主義は、神を超越的な一者として捉え、神との合一を説いた。それは、ギリシア思想の有する合理的な精神に、神秘主義的な観点を接合するものであった。

- ① a 世界市民主義      b 自然法      c セネカ
- ② a 世界市民主義      b 自然法      c プロティノス
- ③ a 世界市民主義      b 実定法      c セネカ
- ④ a 世界市民主義      b 実定法      c プロティノス
- ⑤ a 地球全体主義      b 自然法      c セネカ
- ⑥ a 地球全体主義      b 自然法      c プロティノス
- ⑦ a 地球全体主義      b 実定法      c セネカ
- ⑧ a 地球全体主義      b 実定法      c プロティノス

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 5	15	②	3

2016 年本試

問 5 次の文章は、ストア派の理法の考え方を発展させたキケロが、法の位置づけについて述べたものである。その内容の説明として最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 

15
----

まるで盗賊が寄り合って制定した規則同様に、法律という名とは関わりのない多くの有害無益な規則が諸国に制定されているのは、驚いたことだ。例えば、無知で無経験な人間が薬の代わりに致死の毒を処方した場合、それは医者の方であるとはとうてい言えないように、国家の場合にも、たとえ国民が有害な規則を受け入れたとしても、それは法律の名には値しないのだ。したがって、法律とは正邪の区別にはかならず、同時にまた、万物の根源であるあの太古以来の自然というものの表現でもあるのだ。そして、悪人を罰し善人を守護する任を帯びた、人の世の法律は、この自然を範として定められたものだ。

(『法律について』より)

- ① 法律は自然に従って定められる限り、善人と悪人を公正に裁くことができる。というのも、太古以来、善人の総意によって、自然そのものが管理され、形作られてきたからである。
- ② 法律は自然に従って定められる限り、善悪と正邪を誤りなく区別することができる。なぜなら、法が模範とすべき原初からの自然は、あらゆるものの根源でもあるからである。
- ③ 法律は自然に従って定められただけでは、善人と悪人を公正に裁くことはできない。というのも、法律を用いるのは国家であり、それを構成する国民は自然とは関わりがないからである。
- ④ 法律は自然に従って定められただけでは、善悪と正邪を誤りなく区別することはできない。なぜなら、豊富な知識や経験に基づかなければ、法律は有害なものともなり得るからである。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
------	----	------	----	----

第 2 問	問 5	15	②	3
-------	-----	----	---	---

2016年追試

問8 人が自己のうちにもつ負の要素をめぐる先哲の考えの説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

18
----

- ① ヴァルダマーナは、人は生き物を殺して食べるという業によって、苦しみに満ちた輪廻を繰り返すので、徹底した不殺生を守ることで、苦行という厳しい修行を行わなくても、解脱することができるという説いた。
- ② ストア派のゼノンは、人は恐怖や欲望といった情念により魂がかき乱されるが、そのような情念は自然に反するものであるため、理性によりそれらの情念を克服して、自然に従って生きることを説いた。
- ③ ムハンマドは、人は人祖であるアダムとイヴの過ちに由来する罪を負っているため、悪徳や偽善の横行する現実社会から身を引き、<sup>いんとん</sup>隠遁生活のなかで魂を浄めることのほかには、神に至る道はないと説いた。
- ④ 韓非子は、人は自分の利益を追求する存在であり、放置しておけば欲望の赴くままとなるので、法を制定し、刑罰によって導くことで、人々の徳性が開花し、最後には法も不要になる社会が実現すると説いた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第2問	問8	18	②	3

2014 年本試

問 2 下線部 **b** に関連して、理性に従った生き方を主張したストア派について述べた次の文章を読み、文章中の **a**・**b** に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑨のうちから一つ選べ。 **12**

紀元前 3 世紀に **a** によって創始されたストア派は、宇宙は万物の根源が自らの理法に従って自己展開したものであるから、宇宙の一部である人間も、理性に従うことで理法と一致した生き方をすべきであると主張した。また、彼らはそのような考え方に基づき、社会のあり方についても言及し、**b** を唱えた。

- |   |   |     |   |        |
|---|---|-----|---|--------|
| ① | a | セネカ | b | 世界市民主義 |
| ② | a | セネカ | b | 社会有機体説 |
| ③ | a | セネカ | b | 配分的正義  |
| ④ | a | キケロ | b | 世界市民主義 |
| ⑤ | a | キケロ | b | 社会有機体説 |
| ⑥ | a | キケロ | b | 配分的正義  |
| ⑦ | a | ゼノン | b | 世界市民主義 |
| ⑧ | a | ゼノン | b | 社会有機体説 |
| ⑨ | a | ゼノン | b | 配分的正義  |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 2	12	⑦	2

2013 年本試

問 1 ストア派のアパテイアの説明として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 

12
----

- ① 自然に従って生きること，魂が完全に理性的で調和したものとなり，欲望や快楽などの情念によって動かされない状態。
- ② 情念や欲望が理性の命令に聞き従うことで，魂の三部分間の葛藤<sup>かっとう</sup>や分裂が克服され，心が全体として理性によって制御された状態。
- ③ 過剰な情念に満たされることと，情念に心が少しも動じないことの中庸として見いだされる，有徳な人間にふさわしい適度な情念をもった心の状態。
- ④ 苦しみや悲しみなどが取り除かれて，心のうちに快楽が得られることによって，魂が浄化された平静な状態。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 1	12	①	3

2012 年追試

問 3 古代ギリシア・ローマでは欲望をめぐって様々な考察がなされてきた。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

6
---

- ① ソクラテスは、魂のそなえるべき徳が何かを知ればその知を利用して、手段を選ばずあらゆる欲望を満たすことができるので、徳の知を追い求めていくべきだと説いた。
- ② プラトンは、人間の魂の三部分を二頭の馬とその御者に譬え、欲望的部分が御者として、理性的部分と気概的部分をあらわす二頭の馬を導いていくという人間の自然本性の姿を描いた。
- ③ アリストテレスは、欲望や感情に関わる倫理的徳のみに従うことと、知性や思慮に関わる知性的徳のみに従うこととの両極端を避け、両者の間の中庸を選択するような性格を身につけるべきであると説いた。
- ④ エピクロスは、快樂が人間にとっての幸福であるとみなしたが、その快樂とは、自然で必要な欲望を節度ある仕方で満たし、身体の苦痛や魂の動揺から解放された状態のことであると考えた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 3	6	④	3

2011 年本試

問 7 先哲たちの死に対する洞察に関連して、次のア～ウはそれぞれ誰の思想についての記述か。その組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 

11
----

ア 人の生は仮の宿のようなものであり、虚無から生まれ虚無へと帰るため、生の長短など、あらゆる相対的価値に囚<sup>とら</sup>われてはいけない。

イ 人は業によって輪廻を繰り返すのであるが、不殺生などの戒めを守って苦行を重ね、悪業をなさないようにすることで輪廻から解放される。

ウ 身体が減れば魂も飛散するため、生きている間は死に出会わず、死が来た時には私たちはもういないのだから、死を恐れる必要はない。

- |   |   |    |   |          |   |         |
|---|---|----|---|----------|---|---------|
| ① | ア | 墨子 | イ | ナーガールジュナ | ウ | エピクロス   |
| ② | ア | 莊子 | イ | ヴァルダマーナ  | ウ | エピクロス   |
| ③ | ア | 孟子 | イ | ナーガールジュナ | ウ | エンペドクレス |
| ④ | ア | 孟子 | イ | ヴァルダマーナ  | ウ | アリストテレス |
| ⑤ | ア | 莊子 | イ | ナーガールジュナ | ウ | アリストテレス |
| ⑥ | ア | 墨子 | イ | ヴァルダマーナ  | ウ | エンペドクレス |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第2問	問7	11	②	3

2011 年追試

問 3 誕生時の星の配置がその人の運命を示すという考え方を支持した思想の一つとして、ストア派の哲学が挙げられる。ストア派の世界観の説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 7

- ① この世界のあらゆる事物は、万物の構成原理である数の比例関係に基づいて生じる。
- ② この世界のあらゆる事象は、無数に存在する原子(アトム)の離合集散によって生じる。
- ③ この世界のあらゆる事物は、永遠不滅の真の实在であるアイデアを原型として生じる。
- ④ この世界のあらゆる事象は、世界に内在する理法(ロゴス)の支配にしたがって生じる。

問 5 占いに対する哲学者の賛否両論を紹介するキケロの著作では、占いに対する賛否双方の立場から、様々な哲学者の議論が引かれている。次のア～ウは、そこに登場する哲学者についての記述であるが、それぞれ誰のことか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 9

- ア 紀元前 585 年の日食を予言するなど、天文学や幾何学に通じ、自然について合理的説明を与えることを試みたと伝えられている。
- イ デルフォイの神託をきっかけとして哲学的対話の活動を始め、ダイモーンの声を聞いて自らの行動を律したと言われている。
- ウ 神々の摂理を否定することによって、迷信などがもたらす心の動揺から解放されることが、真の快樂を得るために不可欠であると論じた。

- ① ア ピタゴラス      イ ソクラテス      ウ エピクロス
- ② ア タレス          イ プラトン      ウ ゼノン
- ③ ア ヘラクレイトス    イ ソクラテス    ウ ゼノン
- ④ ア ピタゴラス      イ プラトン      ウ プロティノス

- ⑤ ア タレス                      イ ソクラテス                      ウ エピクロス  
⑥ ア ヘラクレイトス                      イ プラトン                      ウ プロティノス

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第2問	問3	7	④	2
第2問	問5	9	⑤	3

2010 年本試

問 3 ストア派の人々が説いた「自然に従って生きよ」とは何を意味するのか。最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 7

- ① 文明化された都市においては理性的な判断を惑わすものが多いため、自然の中で魂の平静を求めて生きよ、という意味
- ② 感情に左右されやすい人間の理性を離れ、自然を貫く理法に従うことにより、心の平安を得て生きよ、という意味
- ③ 人間の理性を正しく働かせ、自然を貫く理法と一致することで、心を乱されることなく生きよ、という意味
- ④ 人間の理性を頼みとして努力をするのではなく、自然が与えるもので満足することを覚えよ、という意味

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 3	7	③	3

2009 年本試

問 2 エピクロスが提唱した生活信条として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 

6
---

- ① 感情を乱す原因を避けて隠れて生きることによってアタラクシアを求め，安らかに暮らす。
- ② 極端な感情を避けて適切に選択できるメソテースの獲得と保持を求めて暮らす。
- ③ 美にあこがれるエロースの感情に突き動かされて，ひたすら美を求めて暮らす。
- ④ 欲望を抑えていかなる感情にも心を動揺させることのないアパテイアを目指して暮らす。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 2	6	①	3



2007 年本試

問 1 文章中の  に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ  
選べ。

仏教の開祖ゴータマ=ブッダは「怒りを捨てよ。慢心を除き去れ」と語り、解脱を  
求める者は怒りを捨て去るべきことを説いた。ストア派も、『怒りについて』の著者  
を始め、怒りなどの感情を理性によって除去する点に徳の成立を認めている。  
個人の静穏な生活を重んじるこれら二つの思想は、魂の平安をかき乱すという理由  
で、怒りに否定的評価を下している。

① アウグスティヌス

② エピクロス

③ セネカ

④ プロティノス

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 1	5	③	2

2007 年追試

問 3 ヘレニズム時代になって提唱された哲学・思想についての記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 7

- ① 戦乱により崩壊したポリスに縛られることなく，個人の内面に目を向け，人間の幸福は魂の自由と平安にある，とする考え方。
- ② 知恵の徳を具<sup>そな</sup>えた哲学者が，善のアイデアを基準にして国家を正しく治めることにより，国家の正義が実現される，という考え方。
- ③ 魂の徳が何であるか，その定義を知ることによって，徳を具えると同時に幸福な人になりうる，という考え方。
- ④ 自然現象の根底に存在する不変の原理であるアルケーを，ロゴスによって探求すべきだ，とする考え方。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 3	7	①	3

2006 年本試

問 6 キケロは、その著作『老年について』において、人生に関して次のような考え方を伝えている。この考え方に合致する記述として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 10

少なくともわしの見るところでは間違いなく、<sup>すべて</sup>全ての仕事に満ち足りることが人生に満ち足りることになる。少年期には少年期の仕事がちゃんとあるが、だからといって青年がそれを愛惜するだろうか。青年期の入口にある仕事を中年と呼ばれるすでに安定した世代が追い求めるであろうか。中年期にももちろん仕事があるが、老年になってそれが欲しがられたいはしない。そして老年にはいわば最後の仕事がある。それ故、前の各年代の仕事が消えていくように、老年の仕事も消えてなくなるのだ。そしてそうなった時には、人生に満ち足りて死の時が熟するのである。

- ① 人の一生は春夏秋冬の四季に<sup>たと</sup>喩えることができる。春には春の、冬には冬の特質があり、他の季節にはないものである。それぞれの季節の特質はその季節において実現されるように、少年期を始めそれぞれの時期になすべきことをなしていくのが、善き生である。
- ② 人の一生は春夏秋冬の四季に喩えることができる。春と秋は過ごしやすい好ましい季節であり、夏と冬は過ごすのに困難を伴う季節である。そのように人の一生も浮き沈みがあるが、それぞれの期間、どんな境遇にあっても全力を尽くすことが、善き生である。
- ③ 人の一生は春夏秋冬の四季に喩えることができる。一年が春夏秋冬で終わるように、人の一生も春夏秋冬で終わる。若くして死ぬ人にも、長命の人にもそれぞれの春夏秋冬があるのである。いつ死を迎えるにせよ、与えられた期間精一杯生きることが、善き生である。
- ④ 人の一生は春夏秋冬の四季に喩えることができる。春の後に夏が来るように季節の順序は定まっていて、逆になることはない。そのように人の一生も一方向に向かって進行し、後戻りすることはないのだから、どの時期にあってもつねに将来に向かって努力することが、善き生である。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第2問	問6	10	①	3

2005 年本試

問 4 ストア派の生活信条として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 

5
---

- ① 各人は情念に動かされることなく，すなわち，自然に従って理性的に生きるべきである。
- ② 各人は富や権力や健康など，外面的なものを頼りにせずに，できるだけ何も持たないで生きるべきである。
- ③ 各人は精神的な快樂を保つために，政治や公共生活への参加を避け，隠れて生きるべきである。
- ④ 各人はポリスの動物であり，ともに善い人間になることを目指す友愛を重んじて生きるべきである。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 4	5	①	3

2004 年本試

問 1 文章中の  に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ  
選べ。

倫理というものを考える上で、「善とは何か」という問いは根本的である。およそ倫理的な行為は善に関する何らかの判断をもとにするからである。ギリシアの哲学者ソクラテスはただ生きるのではなく、自己の魂を善いものとする<sup>こと</sup>で善く生きることを探究した。「一体、善とは何か」という問いに対して彼の弟子プラトンは魂の善を探究する道<sup>を</sup>押し進め、「善のアイデア」と魂のかかわりによってこれに答えようとした。アリストテレスは善を人間の自然本性に基づく魂の内的働きと捉え、善のアイデアに代えて万人の希求する善としての「幸福」の実現を目指した。さらに  は、様々な情念から解放され、外部の何ものにも煩わされない魂の状態を善と捉え、理想とした。

- ① ヘラクレイトス      ② アナクシマン드로ス  
③ ストア派のゼノン      ④ タレス

問 2 機械論的自然観の古代における先駆者の一人としてエピクロスがいる。エピクロスの倫理思想の記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 美のほとんどが便宜・効用という観念から生まれるのだから、快樂や苦痛は、美や醜の観念に必然的に伴うだけでなく、美や醜の本質をなす。  
② いかなる快樂をも貪<sup>むさぼ</sup>る人は放埒<sup>ほうらつ</sup>だし、あらゆる快樂を遠ざける人は逆に無感覚な人になる。私たちは、双方の中庸である節制を目指すべきである。  
③ 快樂や苦痛は、その強さ、持続性、確実性、遠近性などと、それが及ぶ人々の数を考慮に入れることによって、その総計を計算することができる。  
④ 私たちが人生の目的とすべき快樂は、放蕩<sup>ほうとう</sup>者の快樂でも性的な享樂でもなく、身体に苦痛のないことと、魂に動揺のないことにほかならない。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 1	1	③	2
第 2 問	問 2	12	④	3

2001 年追試

問 1 文中の  に入れるのに最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

ストア派のゼノンが， と呼ばれる心の平静な状態を理想とし，欲望や快苦に惑わされない生き方とはどのようなものであるかを思索した。

- ① アパテイア                      ② アタラクシア  
③ アルケー                        ④ アナムネーシス

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 1	1	①	2